

記 者 発 表 (発 表 ・ 資料配布)				
月/日 (曜日)	事務所等名	電 話	発表者 (担当者)	その他の配布先
令和7年 6月4日 (水)	北播磨県民局 県民躍動室	0795-27-7180	室長 多田 敦生 (地域振興課班長 佐藤 公子)	県政記者クラブ

第18回播州織PR・展示販売会の開催

播州織は、自然な風合いと豊かな色彩、肌触りの良さが特徴の先染織物として知られ、兵庫県を代表する地場産業の一つです。

先般(5/26)の大阪・関西万博「ひょうごフィールドパビリオンフェスティバル」でも、西脇高校生活情報科の生徒による播州織ファッションショーが開催され、国内外の多くの方々に播州織の魅力を発信することができました。

そのような魅力を見て、体感していただくため、神戸市(県庁)と加東市(社総合庁舎)で「播州織PR・展示販売会」を開催します。

- 日時・場所** 令和7年6月10日(火) 11:00～15:00 県庁1号館1階ロビー
令和7年6月11日(水) 11:00～14:00 社総合庁舎本館1階ロビー
- 主 催** 西脇商工会議所、北播磨県民局
- 協 賛** (公財) 北播磨地場産業開発機構
- 内 容** 播州織のPR・展示販売
(販売商品例) オーダーシャツ、既製シャツ(長袖・半袖)、ストール、バッグ、扇子等

【令和6年度 PR展示販売会の様子】



(県庁)



(社総合庁舎)

【播州織の特徴】

糸を先に染め、染め上った糸で柄を織る「先染織物」という手法が特徴。国内先染織物の約60%のシェアを占めており、その独特の製法により、自然な風合い、豊かな色彩、素晴らしい肌触りの生地仕上がり、シャツやハンカチなど様々な身近な製品に加工されている。

【播州織の歴史・現状】

200年以上前の江戸時代中期に京都西陣の織物技術をもとに、農家の副業として西脇市・多可町を中心に北播磨地域で生産され、当時は「播州縞」と称されていたが、明治39(1906)年の「第1回多可・加東・加西連合織物品評会」で服部一三知事が訓諭で「播州織」と称し、以降「播州織」と称されるようになった。

近年は、低調な国内需要と安価な海外製品の流入により、生産量は減少傾向にあるが、染から織、仕上げまで産地で一貫した工程を行える強みを生かし、国内外向けの高品質製品として販路拡大に努力している。

加古川水系の豊富な水資源に支えられてきた産地では以前から、水質保全に尽力し、繊維廃棄物や余剰糸を再資源化・再利用する等、自然との共生をテーマにSDGsに積極的に取り組んでいる。



ひょうごフィールドパビリオン
Our Field, Our SDGs
私たちのフィールド、私たちのSDGs